

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2066回★★ 初登山 比叡山	1/7(日) 9:00 北白川仕伏町バス停	奥村 信弘 (791-7400) 吉田 武(654)	北白川仕伏町…瓜生山… ケーブル終点…頂上△ (東山トレール)
参加費 500円 各自, もちを持参して下さい。			
第2067回★★★ 伊吹山スキー登山	1/13(土) 5:00 壬生集合	大槻 雅弘 (703)	京都東IC-関ヶ原-伊吹 …山頂…往路下山
久し振り息吹へ登りたく思います。スキーのみの人も参加可。早朝出発しますので連絡のこと。			
第2068回★★★ 上高地トレッキング	1/27(土)~28(日) 9:00 壬生集合	岡田 茂久 (790)	京都-松本IC-坂巻温泉 (泊り) 坂巻温泉-大正池-河童橋 -明神池-徳沢園-河童橋 坂巻温泉-松本IC-京都
雪の坂巻温泉で露天風呂を楽しみ, 早朝に出発, つららの釜トンネルを経て, 凍りついた大正池で朝日に輝く素晴らしいダイヤモンドダストを体験, 白銀に鎧う穂高連峰を見上げる最高の展望を楽しみながら, 河童橋から徳沢園まで梓川河原をスキートレッキングします。 マイカー山行, 旅館泊まりのため申込は先着6名迄, 詳細は担当者迄 冬山装備, 山スキー利用 地図 1/2.5万図 上高地, 穂高岳			
第2069回★★★ 積雪期指導員研修会 南八ヶ岳周辺	2/9(金)~12(月) 9日 21:00 東本願寺	吉田 武 (654)	赤岳鉱泉小屋をベースにして, 周辺の赤岳・阿弥陀岳・横岳等のルート
主催 日本体育協会, 日本山岳協会, C・B級スポーツ指導員養成講習会。 参加費 32,000円, 講習料 2,000円。 参加希望者は1/15までに担当者へ			
今月の集会兼新年会		企画運営委員会	
日時 1月9日(火) 18:30 場所 松尾橋西詰下る「網船小島」 会費 3,000円(当日徴収) 担当 鷺見(643-3391) 井戸(822-9175 内810) 山元(822-9106 内506)	日時 1月19日(金) 18:30 場所 厚生会館4F 大教室		



謹賀新年 今年の冬は久方ぶりの寒い冬になりそうである。

ここ数年暖冬続きで、いよいよ北極の氷も溶け出すのかなと思っていたが、今年は北半球全体が寒くなりそうだという予報である。ヒマラヤ周辺では11月に思いもかけぬ大雪が降り、トレッキングの人達が雪崩の被害に遭っている。

寒いといえば、交通局も寒波続きであるが、地下鉄東西線と烏丸線延伸の建設工事が進み、完成時期がはっきりしてきたことは朗報といえば朗報である。何かの歌に、線路は続くよどこまでもという歌詞があったが、京都の地下鉄もどんどん延ばしていきたいものである。

12月に新しい名簿を配布したが、H7.9.1時点で部員数118名、その内OB部員が39名を占めるに至った。例会の参加者もOBが現役をしのご勢いである。まさに中高年パワー全開といったところであるが、退職して見違えるように元気になった人の顔を見るとむべなるかなという感がする。

新年恒例の初登りは1月7日比叡山である。新年会は例年どおり松尾の小島である。今年もはりきって登ることにしよう。

(H.7.12.13記 S.I.)

オオボウソウ△760.1mと深山780m

大槻雅弘

京都府下に500m以上の三角点は182座あるが、このオオボウソウを登り、私の登っていない山は残すところあと17山になった。特に意識して登ろうと思っていたわけでないが、今年は7山登ったことになる。

何事でも数を目指しそれを達成しようとする、残り少なくなる程むつかしくなる。勿論、山も例にもれず、残っている17山は交通の便がなく、辺鄙な所で、登山道がないか、自動車でも山頂まで登れてしまい登山の対象として面白味が欠けてしまう山ばかりである。このオオボウソウと、夜久野町最高峰である深山は家内と、最近山好きになってきた愛犬と登ることにした。

国道9号線から夜久野町へ入り、夜久野町駅前から北へ、小坂峠へ向う宮垣の神社前で車止とした。ちょうど、神社横で農作業をしていた老人に、オオボウソウのルートを尋ねた。老人は、登山靴もはいていない私の姿を見て「そんな山、知らんし、登れんよ」と言う。私が地図を見せ、赤線の入れているこの近辺の、居母山や富岡山や、その他点名しかない山に、全部登ったと言うと、老人の態度が急に変わった。「径がなくても登る」と言う私にあきれたのか、それではという感じで、中腹まではなんとか径があり、そのあとは谷筋をジグザグに登り、尾根を登るといだろうと教えてくれた。

老人に教えてもらった道を登り始めて、すぐに、林道へ入る最奥の家で、今度は山名を尋ねた。老婦人であったがすぐに「イツモリ山」と答が返ってきた。婦人は、イツモリの風が吹くからと言う。(私は、イは接頭語で、積み重なった風が吹く、強い風が吹く山という意味でないかと思う)山を挟んで西の現世の老人はオオボウソウと言ひ、東の宮垣の老婦人はイツモリ山と言う。山名採録については、私はその土地の人の山名を大切にしたいと思うので、あえてどちらが正しいとは言わない。

今回は、先に採録した山名をタイトルに使うことにした。林道はコンター350m程まで続いて、あとは細い山道となった。その細い道は、老人の言った通り、コンター500m程で消えた。しかたなく、三角点から南に派生する尾根に乗るべく、その地点の谷筋から東へ振って急坂を直登することにした。

急坂は、落葉で足が滑り、犬まで2～3mズリ落ちる斜面であった。一汗かいて尾根に乗り、あとはケモノ道を高度200mまで稼いで三角点へ着いた。

松に囲まれた三角点は、展望もなく、一段高くなっているでもなく、標石がなければ通過しそうな所であった。

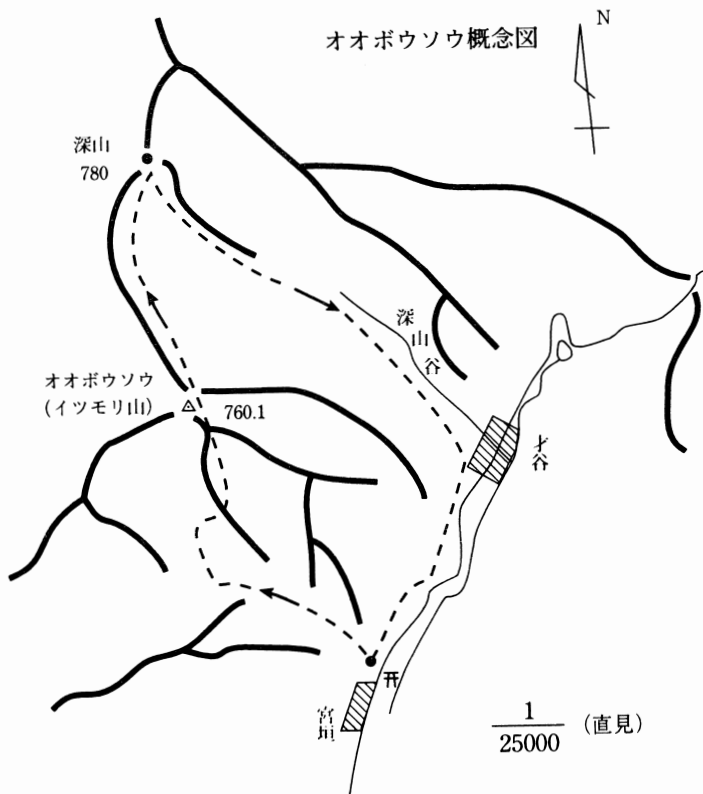
少し早めの食事を摂って、次の目的地深山へ、尾根を北へかすかな踏跡を辿って、50分程かかって着いた。ここもオオボウソウ同様、特に標識がある分でなし、読図にたよるのみである。わず

かに人の跡か、小枝にジュースの空缶が下げてあった。

深山からの下りは、才谷村へ流れる深山谷へ、東南の方向の尾根を下った。300m程尾根道を歩くと、細い山道に出て、そこからすぐに林道へと出ることが出来た。

オオボウソウの山は、冬に装えて木々は身仕度をし、山肌は落葉をかぶり静かに冬を迎えようとしている。誰にも合うことのない静かな山行であった。

【コースタイム】 上桂7:15 - 9:30 宮垣9:45...10:06 林道終点...11:40
1995.11.19 (晴) オオボウソウ12:12...13:20 深山...14:05 小径...14:50
宮垣15:20...18:40 上桂



迷岳 1,309 m と古ヶ丸山 1,211 m

坂井久光

12月1日山崎大造氏と大久保で待合せて出発。木津川沿いに走り、笠置・柳生を経て榛原附近のキャンプ場で泊。2日伊勢街道を通り高見山トンネルを抜け楠田川の支流青田川ダムを通り塩ヶ瀬の香肌峡温泉に寄り、迷岳の登路を聞きイラストマップをもらい迷岳からの谷の出合近くの林道分岐で駐車。谷沿いの右手の林道に入り登路を探して暫く左岸沿いに溯ったが道が悪くなり、少し戻って杉林の中の植林の登路を見付けて登ったが、岩壁の下のコルで行づまり、右の枝尾根へガレ場をトラバースして杉林に登路を見付けて尾根付に出た。

標識を頼りに急な瘦尾根を岩角や樹の根に掴まり飯盛山930 mに登り、それからは小さな登り下りが続き、昨夜に降った新雪を踏んで13:50迷岳二等三角点に立った。その少し前二人の登山者と会い、JACの辻さんの一行で左の林道の終点から登ったとのこと。一般にこのルートから登っているようである。

登りに約5時間余りかかった。昼食休憩を含んでいるが険しいがなだらかな所もあり、よいコースで久しぶり手答えのある登頂であった。

下山は少し下った所で標識があり、急な杉林の尾根を下るコースで谷へ下ると、大きな滝の上にて高巻いて下り、やがて右にそれて林道終点に出た。滝は落差80 m位か。駐車場に林道を下って着き、ホテルの温泉に行き入浴して汗を流したが、入浴料700円であった。

その晩は近くの駐車場で泊。

翌3日、県道を下って森に出て国道を宮本で左折、県道に出て湯谷峠を越え栗谷川沿いに下り宮川沿いの車道に出て右折、^{カラス+}犁谷出合で犁谷林道へ右折して材木集積場の手前で駐車。

谷沿いの林道は尚も奥に延びているが、やがて落石がありすぐ終点となる。古ヶ丸山の登路はその手前の急な枝尾根に登るのだが、溪側の杉に標識がある。二人でその先にレンガ滝を見に行き、少し戻って植林の道を見付けて登った。やがて登路と合し鹿よけのネット沿いに登って枝谷を渡り本谷の右岸尾根を登って稜線へ。途中からヒメシャラの木が目立ち、コウヤマキやブナが現れるが稜線近く迄杉の植林地が続いた。突凸したピークを登って残雪がある山頂三等三角点に着いた。北に高見山、西に池木屋山、南に大台ヶ原山や仙千代峯や熊野灘の小島も見える展望の良い山だった。

展望を十二分に楽しみ、往路下山。

湯谷峠を越え国道に出て榎原に行き24号線經由帰洛した。登り約3時間、下り2時間余の山行だった。

初雪の百里が岳

渡辺智生

11月の集会に出席した時、吉田氏が今年の納め山として12月2日に百里岳へ登ると言った一言が頭の隅にありました。その時から勝手に俺も登ると決めていました。

前日彼に電話したところ2週間程前に小入谷経由で登ったのと他に参加者もないのでどうしようかなあーとのことでしたが、無理に御陵で7時30分の約束を取り付けることができました。

当日、まあまあ天気でした。161号線から303～27号線経由で遠敷川に沿って中の畑、上根来へ来ました。この辺りは、空一面に雲が垂れ込めまだ夜明けまえの様でみぞれまじりの冷たい雨が断続的に降り続いていました。時折切れる雲にわずかに回復の兆しがみえますが、今日は、「まあーこんなものか」と自分自信にあきらめさせていました。

最後の集落、上根来を過ぎるころから2～3センチメートルの積雪があり、林道に入ると車の轍を残してびっしりと雪になりました。ここ2～3日前から続いた冬型気候で降り積もったようです。

林道も登るにしたがって積雪が増します。最初のS字カーブを過ぎた所で車を捨て歩きだすこととしました。林道は4～5センチメートルの雪路それも水を含んでびちょびちょ状態、靴を濡らさぬよう歩くのに苦労しました。革靴をはいては来たが、しまった！防水靴にすればよかった、永い間保革油も塗らずほったらかしで置いた靴に水は容赦無く浸透してきそうです。まだ濡れてはいませんが、押し寄せる洪水を待つような気分です。

日頃の手入れの怠りがくやまれます。

本峰に直接通じると思われる左側の谷に空色のテープ、入口を少し入ったもののこの雪で踏み跡は定かでなく、しかもルートは水量の多い流れを何回も徒渉するようで、積雪の多い今日の天気では無理と思われます。このルートはあきらめ林道に戻ることとしました。

本峰を背にして進む林道の方向を気にしながらしばらく進むと、雪の上に動物の足跡がウサギと熊のようで、雪の上にくっきりと続いています。ウサギを追うよう熊のものが連続してつづいていました。

足跡につられて歩くうち、天気もいくぶん持ち直したようで明るくなってきました。

気を取り直して行くと「鯖街道工事中迂回路ー」の看板があり、山手の尾根に向かってルートを見つけました。これにそって山の中に入りました。ルートはジグザグに登りそのうちなだらかなトラバース気味に左へゆるやかな上下をくりかえして進みます。

雪はだんだん深くなり、足首を越え所によっては膝下までになって来ました。雪の上には残り少なくなった木の葉が落ちているので前夜は風もかなりあったようですが、今は風なく曇り空で落ち着いています。今にも降りそうな空が気になります。白い雪面に散る木の葉はまるで五目飯の上を歩くようです。朝飯は食ったのにどうしてこんな例えが頭をかすめるのか自問自答を繰り返

返し、もくもくと歩きました。これだけ雪が深いとラッセルを変わらねばと思いつつ、前を見ると吉田氏はこれももくもくと行きます。

家を出る直前にふと気づいてリュックに入れた四本爪はよく効きます。爪が無かったら歩けたものではありません。しかし足元はラッセルの分だけ重く汗びっしょりです。

雪の上に茶色のテンテン、おやおやなにかいな、よくよく考えると洗濯したことの無い帽子を濡らして落ちる汗、汗でした。

根来峠に11時30分に着きました。かなり冷えるのは覚悟して来ましたが、雪も多少はあると、しかしここまでとは思ひもなかった完全な冬山の様相です。峠らしいおもかげの残る所ですが、急に降り出した吹雪のなかでそれどころでは無く、立ったまま昼飯をそそくさと済ませました。風もかなり吹き、じっとしていると手の先がしびれて寒いです。頂上へ向かって歩くしかありません。尾根筋へ出ると、右側の滋賀県から福井県へ吹く風が汗した体に心地よく思う間も無くすぐに体温を奪います。大谷出合いを越えるといよいよ急激なのぼりにかかりました。雪は依然として膝下まであります。階段状の登りに手を膝におくことになり膝がズボンから濡れて来ました。下着まで沁みて来ました。これも悔やんでいます。毛の手袋を忘れました。軍手です。ナイロン製のため濡れても余り冷たく感じないのが救いです。風が吹き温度が下がれば凍傷です。濡れた手袋は膝を濡らしています。

遅まきながら、防寒具のズボンを着用することにしました。寒さの中、手がかじかんでいるだけでなく、パンパンです。チャックが張り裂けそうです。悪戦苦闘、腹を引っ込めやっとの思いで入りました。これも日頃の不摂生の結果の報いのようなのです。

いよいよ山頂ですが三角点は雪の下、琵琶湖と日本海に見える山、百里四方の眺望が楽しめる山は降りしきる雪とガスの中でした。

早々に頂上を後にしました。降りしきる雪のため夕暮れのように薄暗いあたりの景色に追われるように往路を忠実にくだりました。さすがに歴史にも登場する若狭の名峰だけに下山路にも骨がありました。

今日は、初雪で思いがけず冬山に遭遇し、改めて装備の日常点検の大切さを痛感したのと、吉田氏に無理を言って同行願ったお陰で今年の山納めが出来たと満足しました。

(コースタイム) 京都7:30～上根来10:20～車駐車10:30～取り付き11:00～
根来峠11:50～12:25～頂上13:15～25～車駐車地15:30

百里ヶ岳 931.3m

梅津 吉田 武

以前に中小屋より百里ヶ岳そして木地山峠とトライアングルで登った。そして先月8日には小入谷峠より登ったので今回は上根来から登る事にした。

自宅を7時に出発して山科でY氏を乗せ、一路162号を西大津バイパスより湖西道路を乗り継ぎ今津より303号を福井県上中町に入る。雲行きもあやしくなり小浜に入った時には本降りである。

上中町より9km程走ると上根来の標識が出て来た。信号を左折して神宮寺(奈良二月堂のお水取りの儀式、水取りの寺)を過ぎて遠敷川に沿って上根来を過ぎると地道になり雪も15cm程ある。 $\frac{1}{25000}$ の地図を見ると谷の出合で途切れているがまだまだ上部に林道はつづいている。雪も深くなって来たので車を置く。

地図の林道が切れている所にテープがあったが沢登りのようなルートなので元に戻って林道を30分も歩くと鯖街道の道標があったのでこれだったら根来坂峠から百里ヶ岳に登れるのでここから登る事にした。

軽アイゼンを装着, 20cm位の積雪で快調にアイゼンをきかして登る。

30cm, 40cmと雪が多くなり歩きにくくなって来たピーク871mを巻くと根来坂峠についた。

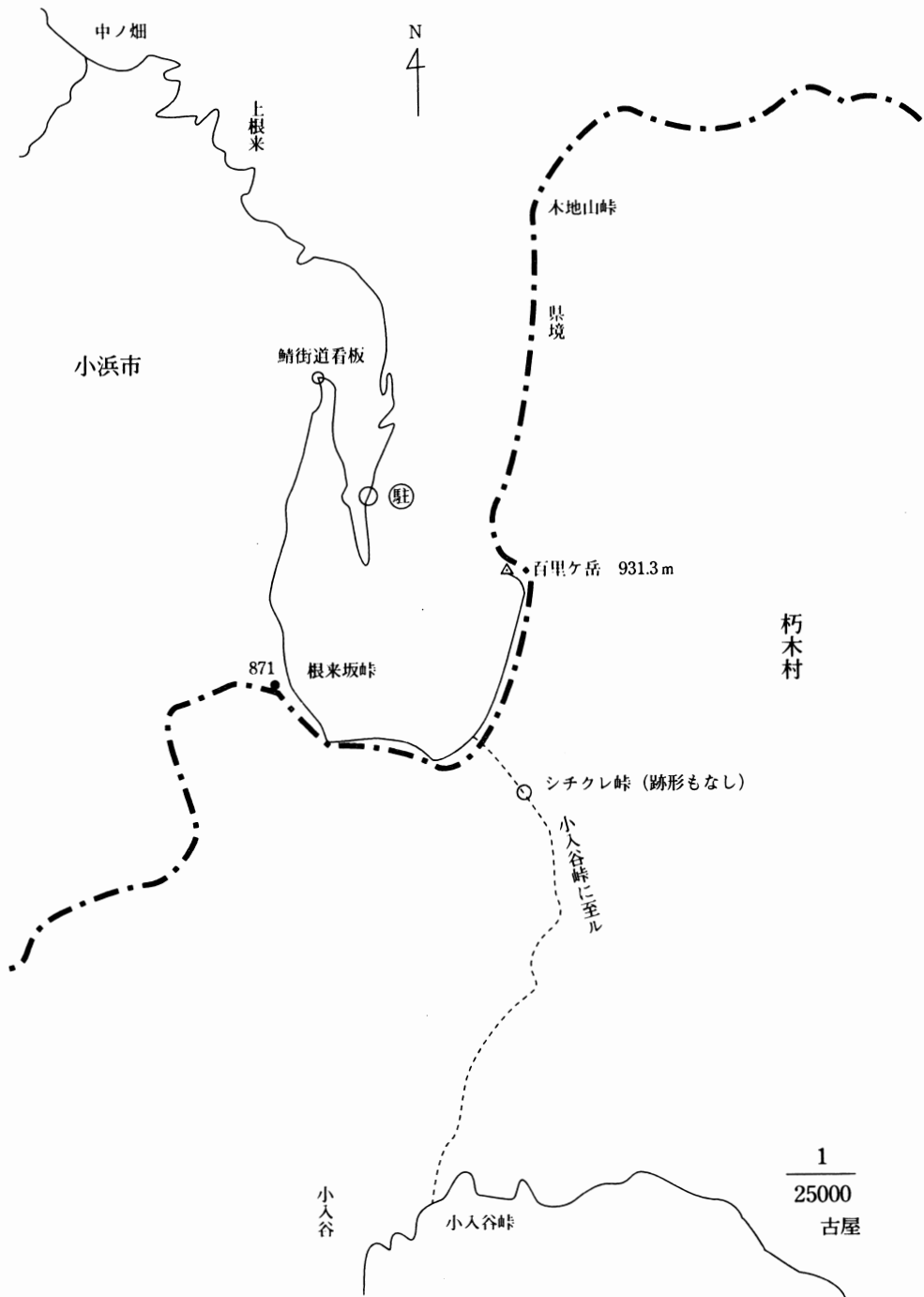
小さな祠が祭ってあったが積雪のため半分程雪に埋っていた。

冬山の真っ只中にいる。70cm以上の積雪で、ここから県境に沿ってラッセルをしながらの苦しい登山であえぎながらやっと小入谷峠からの合流点につく。小休止をして又ラッセルである。雪の重さで樹木がおさえられ所々でルートが閉ざされている。雪を落とすと樹木が立って少し歩きやすくなる。

頂上直下の急坂がなかなか手強く、軽アイゼンのツアツケもあまりきかず苦勞したが、やっと頂上の看板が見えた。

標石は雪の下になっていた。80cm以上の積雪で小休止をして早々に往路を下山した。久しぶりこちよい疲労であった。(12月2日)

【参加者】 渡辺智生 吉田 武



例会報告

例会 No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
2060	オオボウソウ	11月19日		大槻 雅弘	他1名	(別稿詳報)
2061	雪彦山	11月18日 ～19日		大倉寛治郎	吉田 武 松田 誠二	(次号報告)
2062	荒島岳	11月22日 ～23日		吉田 武		中止しました。
2063	一斉清掃登山	11月26日		岡田 茂久		
<p>平成7年度一斉清掃登山(天王山)</p> <p>11月26日、9時にJR山崎駅前に集合。晴天に恵まれたこともあって、ファミリー参加も多く、歴代の山岳部長を含む沢山の京交山岳部員の皆さんと、岳連傘下の他山岳会の皆さん方に集まって頂けた。挨拶の後、大山崎町助役、教育長を始めとする大山崎町民の皆さんと一緒に、天王山頂上まで一斉清掃登山を開始。今日は他都市からの登山者が大変多い。例年のことではあるが近年になって山は大変美しくなり、山道沿いに散乱するゴミは少なかった。しかし、それでも藪影には空き缶を始め弁当空等のゴミがまだまだ多い。まだ山頂にはゴミ箱が設置されたままであるのは問題がありそうだ。</p> <p>終了後、大山崎町歴史資料館を優待見学する。大山崎山荘ゆかりの有名な「蘭の図譜展」、ニッカウスキー創始者加賀正太郎氏が、日本人で初めてユングフラウを登頂した折の登山用具が、大町山岳博物館からはるばる出展されていた。来年もよろしく。</p> <p>参加者 近藤、山村、横井、鷺見夫妻、 伊豆倉F×1、井戸、上島、大槻、岡山、方山、木下、国友、田村、竹田 原田、平井(会友)、森本F×1、山元F×3、吉田、和田 市役所山岳会6名 ZEROクライマーズクラブ2名</p>						
2054	岩戸山	12月9日		大槻 雅弘	吉田 武 他1名	(次号報告)
2064	花背山村交流 の森	12月10日		岡田 茂久		中止しました。

部 員 動 静

目 的 地	月 日	天 候	参 加 者	記 事
迷岳と 古ヶ丸山	12月1日 ～3日		坂井 久光	(別稿詳報)
百里ヶ岳	12月2日		吉田 武 渡辺 智生	(別稿詳報)
(湖北) 鉢伏山	11/25(土)	雪	岡田 茂久 F×2	<p>湖北のどこか簡単な所に登ろうと出かけてみたが、湖北は雨。R365を北上してみると椿坂峠では雪に変わり積雪5cm、結局、新雪のR365スキー場から木の芽峠を経て鉢伏山に登ってきました。鉢伏山は頂上までスキー場となり、レストハウスにリフト頂上駅が建設されおまけに木の芽峠にはラーメン屋まで建っている。</p> <p>頂上からの敦賀湾から常神半島迄の素晴らしい景色だけは変わっていなかった。新雪を踏んで犬だけが大喜びだった。</p>

雑 報

△△△ 12月の集会

日 時 12月12日(火) 18:30 ~ 20:00
場 所 厚生会館 4F 大教室
出 席 者 (本局) 岡田, 井戸, 井上 (OB) 奥村, 渡辺 (梅津) 吉田
(竹田) 大倉 以上7名
内 容 例会報告ほか

△△△ 11月の企画運営委員会

日 時 11月20日(月) 18:30 ~
場 所 厚生会館 4F 大教室
出 席 者 井戸, 吉田, 大倉, 三橋
内 容 例会予定, ほか

△△△ 他山岳会の会報

12月号 わっぱ, 趣味の登山, 木難, 山友, 北山, 近畿山行, 京都山岳, 青嶺,

△△△ 訂正のお願い

12月に配布した名簿で, 石田幸次氏の血液型がA B型になっていましたが, O型の間違いでした。訂正をお願いします。

なお名簿に間違いや変更事項がありましたら井戸(822-9175, 内810)までお知らせ下さい。



家庭用品 } 総合卸商社
衛生用品 }

日華商事株式会社

本店 京都市南区上鳥羽大物町13番地
☎ 601 電話 (075) 672-6101(代)
FAX (075) 661-7332

八坂運送有限公司

京都市伏見区醍醐新町裏町 24 番地の 4
TEL (075) 571-1108

帆 布 ・ 濾 布
テント ・ シート
雨 合 羽

木村工業有限公司

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)

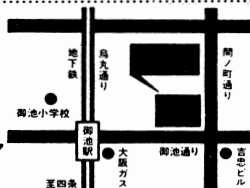
西大路営業所

下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング
アフトアーフ・ウェア・US製用品
ポータブルカフト用品



〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(258)-0548
営業時間 AM10:00 - PM8:00 毎週火曜定休
(休) スポーツ コニシ

明けましておめでとございます。
昨年、小社は創立四十周年を迎え、社屋を増築すると共に大幅な設備の更新を行いました。経験豊富なスタッフが最新のハイテクノロジを駆使して、企画・編集から印刷・製本まで一貫して行い、みなさまの多様なニーズにお応えすべく進致しております。小説・詩集・歌集／歴史・校史／伝記・遺稿集／紀要・論文／集／部報・会誌などご予算に合わせて製作致します。お見積りは無料です。お気軽にお問い合わせ下さい。

平成八年元旦
株式会社
北斗プリント社
Tel 〇七五―七九一―六一二五(代)
Fax 〇七五―七九一―七二九〇



建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

株式会社 小林地図専門店

〒600 京都市下京区^{あけす}不明門通六条下る西側
(烏丸通六条東 1筋目下る) ☎ (075) 351-6598

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442

平成8年1月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部